

京都新聞

2008.1.22 朝刊

宇治市の開浄水場休止作業

住民側抗議で 職員引き揚げ

宇治市と住民が対立している開浄水場（岡市神明）の休止問題で二十一日夜、浄水場の休止作業に入るうとした市側と、阻止しようとする市人近い住民側が対峙した。両者の押し問答で住宅街は一時騒然となり、市側はいったん現場を引き揚げたが、住民らは警戒を続けた。

開浄水場をめぐっては、市が昨年六月、水質悪化や施設老朽化を理由に休止しようとしたが、地下水での給水継続を求める住民が作業を阻止した。住民三百十三人が七月十六日、休止差し止めを求め、京都地裁に提訴している。

市は休止作業を二十一日深夜から行うと住民側



浄水場の休止作業に訪れた宇治市職員を取り囲み、中止を訴える住民ら（22日午前10時5分、宇治市開町）

場休止作業

側抗議で
引き揚げ

に通告。同日午後十時
五十分ころ、市職員約
十人が治水場周辺にある
府営水道のバルブの切り
替えにかかわろうとした。
これに対し、決闘集会を
開いて現場で警戒してい
た開地区自治連合会など
三百自治会の住民らが取り
囲み、司法の判断を仰
ぎたいとしているのを無視
しているなどと抗議して
中止を求めた。住民から
「帰れ」と怒号が飛ぶ中、
市側はけが人が出る恐れ
がある」として三十分
ほどで一度引き揚げた
が、住民らは腰を取りな
がら現場警戒を続けた。

京報新聞

2008. 1. 23. 星期日

宇治開淨水場

休止作業住民が阻止
市、司法判断待ち対応へ

宇治市の開浄水場（同地）に在りて、作中職員の現場を離れた後も午前三時ごろまで警戒を続け、作業中止が伝えられた直後の決起集会でも、「まだ問題は解決しなかつた。市民の行動で中止となつたことだ。」

を踏まえて二十一日、今後、住民側が京都地裁に提訴している休止差し止め請求の仮処分の審理結果を待って対応する考えを示した。

切り替え作業には給水したわけではない。住民世帯への事前通告が不可欠で、今後同じ事態が阻止しよう」と再度結束を固めた。

開地区自治連合会水道問題対策委員会の木村正民が求める司法判断を待つて対応する方針。市水

市が住民の反対を受け、休止作業を中止したのは昨年六月に続き二度目。中職員約二十人で浄水場周辺のバルブ操作で府営水道に切り替えようとしたが、警戒していた

道部の小笠原治部長は審理の結果が出次第、早期に切り替えに踏み切りたい」としている。

一方、住民側は深夜の休止作業の阻止に百人近くを動員。二十三日未明、

委員長は「浄水場の休

統を訴える住民の思いは変わらない。これまで同様に地下水での給水を取る、切り替え作業はさせない」と話している。

野田佑介

野田氏